

現代日本学演習 IV

調査的面接の基礎

田中重人 (東北大学文学部教授)

3年生対象：2023年度2学期(6セメスタ) <金4> 605 演習室 (文学部棟 6F) / Google Classroom クラスコード svfn6pp

1 『講義概要』 記載情報

- ◆ 到達目標：(1) 面接調査の長所と短所を把握する; (2) 面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する
- ◆ 目的・概要：面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。
- ◇ 教科書：松浦均・西口利文 (2008) 『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。
- ◇ 成績評価の方法：授業中の課題 (50%)、調査結果に基づく口頭発表とレポート (50%) を合計して評価する。

2 授業予定

- (1) 第1講 研究のイメージをつかむ
- (2) 第2講 調査的面接の方法
- (3) 各自の調査計画について相談
- (4) 第3講 対象者の選びかた
- (5) 第4講 シナリオの作成
- (6) 第5講 インタビュー実施から書き起こしまで
- (7) 第6講 分析
- (8) 第7講 報告書
- (9) 第8講 調査的面接の倫理
- (10) 意見交換, 発表会等
- (11) 期末レポート提出

3 宿題

配布する資料 (4部) を読んで、それぞれのインタビュー結果のまとめかたの特徴について考えておくこと。

現代日本学演習 IV 「調査的面接の基礎」

第1講 研究のイメージをつかむ

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 面接調査法を使った研究がどのような形でできていくかのイメージをつかむ

1 課題

配布した論文4本(東北大学文学部日本語教育学研究室内の修士論文と卒業論文)を読み、それぞれの結果のまとめかたの特徴を考えよ。

- A: 「チュートリアル活動における対人関係の形成に関わる要因」(2004年度修士論文)
- B: 「男性日本語学習者の自称詞使用:東北大学留学生へのインタビューから」(2011年度卒業論文)
- C: 「仙台市における日本語学習支援体制:行政・ボランティア・日本語学習者を対象とした面接調査の結果をもとに」(2007年度修士論文)
- D: 「交換留学経験が個人に与える影響について:東北大学文系学生の場合」(2009年度卒業論文)

2 結果のまとめかたのポイント

- 事前に枠組を決めておくか、面接結果から枠組をつくるか
- 各対象者を理解することに重点を置くか、複数の対象者に共通のことを見つけようとするか
- どのような対象者をどのようにして何人集めるか

3 質問項目を考えるプロセス

シナリオの作成

中心的な質問以外に必要なこと

- 自己紹介
- 研究や調査の目的などについての説明と同意
- 信頼関係形成のための方策
- 提示資料

Open question と Closed question

(教科書 60-64 ページ)

4 次回予習

今回は、対象者選定、シナリオ作成、録音、書き起こしなどの具体的手法について、教科書 66-67 ページを読んでおくこと。67 ページ下端の留意点について、具体的にイメージしてみる。

第2講 調査的面接の方法

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 面接の実際の手順

1 宿題

20分以上の面接調査を行い、トランスクリプトを書き起こして、11/10 授業時まで Google Classroom (ストリーム) に提出。

- 対象者は誰でもよい。
- 録音すること、書き起こして授業で使うことについて了解を得ておくこと
- オンラインでの面接でもよいし、対面でもよい
- 面接を行う時間や場所は各自で手配する。食堂や喫茶店でもよいが、あまり騒がしいと録音がきれいに取れないので注意。屋外は避けたほうがよい。
- 録音は、オンライン会議システムの機能を使うか (使える場合)、各種アプリケーションを導入するか、研究室の IC レコーダを使用する
- トランスクリプトの書きかたは特に制限しないが、対象者・面接者それぞれの発言と説明部分とがはっきり分かるように工夫すること (教科書や既存の論文を参照)
- テーマは自分の調べたいことを自分で選んでよい。思いつかない場合は、たとえば大学に入って驚いたことや戸惑ったこと、卒業後の進路について (対象者が学生の場合)、出身地の方言、対象者の家族に特殊なことばや習慣、健康のために心がけていること、好きな食べ物など、適当に決めること。
- インタビューの言語は日本語でなくてもよいが、その場合にはトランスクリプトに簡単な注釈をつけること

2 シナリオの作成

自分の決めたテーマに沿って、どのような質問をするか、答えによってどのように話を進めるか、おおまかな流れと時間配分を決める。

調査目的の説明や、信頼感を形成するための自己紹介や雑談、話を進めるためのつなぎの話題なども考えておくこと。

3 当日までの準備

- 当日の約束をきちんととること
- 会場の確保と、機材の確保・試し録り
- 書きとるためのメモ用紙 (シナリオを流用するとよい)
- 対象者に提示する資料や、書いてもらう質問紙 (もし必要なら)

4 録音

録音用機材・アプリ等の操作方法を確認しておくこと。特に、「録音中」であることがどこでわかるか、「ホーム」状態の設定と解除、電池残量など確認。

(対面の場合) 通常は、マイクは無指向のまま、机の上などにおいておけば十分である。対象者に、録音していることをなるべく意識させないほうがよい。

録音に完全に頼るのではなく、面接中はその場でメモを取りながら聞く(用紙をあらかじめつくっておくとよい)。

面接終了後、すぐに録音を再生して、きちんと取れているか確認する。もし失敗しているようであれば、できる限り早く、記憶をたどってメモを作り直す。

5 書き起こし

書き起こし作業は、出来るだけ早く(記憶が新しいうちに)はじめる。

ICレコーダの場合、まず音声データをPCにコピーする。

音声を再生するソフトウェアはいろいろあるが、インタビュー書き起こし用に使いやすいものとして、たとえば「おこしやす2」(Okoshiyasu2)がある(Windows版)。起動時に「ファイル読み込み時にエラーが発生しました」などといわれることがあるが、気にしなくてよい。「おこしやす2」のウインドウにファイルをドロップすると再生できるようになる。

- 停止するたびに3秒前に戻る
- 適当な区間を設定して繰り返し聞くことが可能
- 操作を任意のキーに割り当てできる(くわしくは、開発者 Mojo さんのサイト <<http://www12.plala.or.jp/mojo/>> を参照)

別の方法として、音声ファイルを再生しながら、自分の声でその内容を復唱してスマートフォンなどで音声認識させる方法もある。<http://note103.hateblo.jp/entry/2016/07/10/141451> や <http://togetter.com/li/1158214> など参照。近年の音声認識技術の進展はめざましいので、録音したものを直接認識させても、かなりの精度で文字化できるサービスが無料で提供されている……が、そうしたサービスを利用すべきかは慎重に検討すること。

いずれにしても、聞き間違いや変換ミスが多発するので、再度聞きなおして修正する。

研究室のICレコーダを使う場合、ファイルをコピーできて全部聞こえることがわかったら、データを消去してレコーダを返却すること

トランスクリプトには、次の3種類の情報が載ることになるので、一定の規則で区別する。

- 面接者の発言
- 対象者の発言
- 状況の説明など

教科書 p. 69, 86 の例や、前回読んだ卒業論文等の書きかたを参考にするとよい。

「状況の説明」には、対象者の様子や、身体的な動作、音声的特徴、沈黙などについて、解釈上参考になりそうなことを書く。たとえば、「ため息をつく」「声をひそめて」「笑いながら」「○○を指さして」「5秒沈黙」など。会話分析や音声分析ではないので、あまり細かく記録する必要はない。

聞き取れないところは、適宜説明を加えるか、記号などを決めて記述する。

録音時間の5倍以上の時間がかかると考えて、書き起こしのための時間を確保しておくこと。

現代日本学演習 IV 「調査的面接の基礎」

面接実習結果について検討

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 宿題のインタビュー結果について議論

1 課題

宿題で作成したトランスクリプトを各自みて、面接内容とトランスクリプトについて意見を交換する

- 対象者は誰か
- 面接のシナリオ
- トランスクリプトの書きかた
- トランスクリプトの内容をどのように読むか (さまざまな角度から検討すること)

面接調査をしてみたの感想・反省点と、今日の討論でわかったことを提出。

2 今後の予定

来週は休講です。かわりに、受講者個別に時間を設定して、各自がおこなう調査の計画について相談します。自分のレポートのためのインタビューの企画を考えてくること。

第3講 対象者の選びかた

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 対象者の選定

1 今回の課題

この授業のレポートを作成するための面接調査について、どのような対象者を、どのようにして、何人集めればよいか考える。実際のスケジュールや、自分がどの程度の労力を割けるかを考慮して、具体的に考えること。

2 対象者の選定

「無作為抽出」(random sampling)……対象となる「母集団」(population)のなかのすべての個体が同じ確率で選ばれる。面接などの質的 (qualitative) 調査では無作為抽出はあまり使わないが、基準として意識しておく必要はある。

実際には……次の条件を考慮して、対象者を決める：

- 調査可能な人数 (時間と労力の制約)
- 集めることのできる集団あるいはネットワーク
- 分析の鍵となる属性など (いくつかのグループに分けて、それぞれ複数の対象者を確保)

3 対象者との接触とその準備

- 調査名の決定と、調査趣旨を説明する文章の作成
- 対象者との接触 (メールなどの定型文をつくっておくとよい)
- 簡単な内容について事前に情報を集める場合がある
- 当日説明して承諾を得るための「面接承諾書」を (必要なら) つくっておく (下記参照)。この授業についても説明できるよう、『講義概要』などを準備しておくこと。

4 各自の調査の進めかたについて

- 教員との面談で OK が出たら実施してよい
- 一人目のトランスクリプトができれば教員に見せて、内容について相談すること

文献

鈴木淳子 (2002) 『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版。

面接承諾書の文例

【調査名】

東北大学文学部〇年生の □□□□□ と申します。今年度の「現代日本学演習 IV」(東北大学文学部田中重人教授担当)の授業の課題で、面接調査をおこなっております。調査のテーマは「×××××××」というもので、〇〇の人を対象として、私1人で調査します。

この面接への参加は自由意志によるものです。いったん面接を始めたあとでも、面接途中で中止を求めることができます。また、答えたくない質問に対しては、答えなくてもかまいません。

調査の内容は、個人名や所属がわからない形で書き起こし、分析結果を期末レポートとして提出します。また、授業の際に、書き起こした内容を他の受講者とともに検討することがあります。面接の際の筆記記録、録音データは私が責任をもって厳重に保管し、レポート提出後に破棄します。レポートの執筆にあたっては、あなたおよび関係者のプライバシーが侵害されないよう最大限の注意を払い、個人が特定できないかたちで結果を記載します。書き起こし記録やレポートをご覧になりたい場合は、ご請求くだされば、お見せします。

面接者： _____

所属：東北大学文学部〇〇学専修（〇年生）

連絡先：(電話番号、Eメールアドレスなど)

以下の各項目について、同意いただける場合は、チェックをお願いいたします。

- 面接内容を録音することに同意します
- 面接内容についての個人情報を匿名化した書き起こし記録について、「現代日本学演習 IV」授業中に、教員および他の受講者とともに検討することに同意します
- 分析結果を「現代日本学演習 IV」レポートとして提出することに同意します

ご意見やご要望がおありでしたら、自由に記入してください

【スペースを設ける】

以上、ご確認およびご回答いただけましたら、お名前と日付をご記入ください

氏名： _____

日付： 年 月 日

鈴木 (2002, p. 78-79) など参考にして、適宜作成すること。当日、2部を対象者に手渡し、署名した1部を返してもらって保管する。(オンラインでの調査の場合は、やりかたを工夫すること)

第4講 シナリオの作成

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 各自の調査に向けたシナリオの作成

1 今回の課題

自分の面接調査に向けたシナリオを作成する。最初に研究の目的、仮説を書くこと。

2 シナリオを書く上で注意すること

- 仮説を検証するのに必要なことは何か
- 話を理解するために前もって聞いておくべきこと (状況によっては調査票などを用意)
- なるべく具体的な事例をたくさん聞く
- 対象者との人間関係を築くために必要なこと
- 自己紹介、調査趣旨の説明、録音することの許可
- 時間配分
- 相手の答による枝分かれ

3 質問の種類

教科書 pp. 60–62

- 質問を考えるプロセス
- 周辺の質問群 → 中心的質問 → 追質問
- Closed/open question

4 聞き手の役割

- 話題の展開と時間配分を適切に制御する
- 答えの内容を誘導しない
- しかし、関連する話題や具体例を引き出すよう適切な発問を
- さまざまなあいづちや応答の表現を用意しておく
- 相手のしゃべりたそうなことを多くしゃべってもらおうと多いことが多い
- 不正確な内容についてどう確認するか (その場で聞き返すか、しばらく待つか)
- スピーチ・レベル (speech level) の選択 → 不自然にならない範囲でフォーマルに

5 相手との関係とラポールの形成

「対象者との間にある程度の信頼関係を築くことは必須」(教科書 p. 62) → rapport (「ラポール」または「ラポート」)

- 自己紹介の重要性
- 姿勢、しぐさ、態度……
- 感謝 (謝礼?)
- 結果の報告

6 今後の進めかた

来週は (教員の都合により) 休講です。その代わり、各自の調査計画についての個別面談をおこないます。

第5講 インタビュー実施から書き起こしまで

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 面接の実施、トランスクリプトの作成、聞き取り内容の整理

1 面接前にやること

- 対象者向け文章や面接承諾書など作成、事前の情報収集 (前々回資料)
- シナリオの作成 (前回資料)
- 場所と時間の決定、場所の準備
- 録音用機器やソフトウェアの準備。録音できるか、電池残量など確認すること

2 面接時

- 自己紹介
- 調査趣旨とデータ利用について説明し、同意を得る (授業の一環であること、録音すること、**個人情報**を消去したトランスクリプトをつくって授業中に検討し、レポートとして提出すること をきちんと説明する。説明を書いた紙を熟読してもらい、承諾書に署名を求めるのが正式)
- 許可がえられたら、録音をはじめ
- メモをとりながら聞く (機材が故障することもありうる)。シナリオを加工して、メモ用の紙をつくっておくとよい。
- シナリオやメモが相手の目に触れないようにする
- 後日のために、連絡先をきいておくとうい (個人情報なので取り扱い注意)

3 面接終了後

- できるかぎり早く、会話が録音できていることを確認する
- 音声データをPCにコピーして、書き起こしをはじめ (記憶が新しいうちに)
- 通常は、前から順番に
- 共有のICレコーダを使う場合、レコーダの録音データは、PCに移せて内容が聞けることを確認したら消去する (ICレコーダはすぐ返却すること)
- 音声データは複数コピーをつくり、厳重に保管する (暗号化・パスワード機能付きのフラッシュメモリなど)。特に、共用PCで作業したあとにファイルを置き忘れないこと

4 書き起こし

トランスクリプトは、自分が読んで分析するためのものである(論文などで引用するときは、適宜整形する)。自分なりに記号などを工夫すること。基本的に、ターンごとに行をかえて書いていく。

- あいづちや重なった発話は適宜表記を工夫する → 会話分析 (檜村 2010)
- 自分が後で読んだ時に記憶を正確によびだせるように書く
- あきらかないいまちがい、方言、特殊な符丁などについても、そのとおりに書く → 必要なら注釈を
- トランスクリプトだけを読んだ人とは解釈がくいちがうことがありうる → レポートに載せるときの根拠の書きかた
- 多言語の場合の書きかた

万一流出した場合にも対象者が特定できないよう、対象者の氏名や具体的すぎる固有名詞については、記号化するか、適当な仮名を割り当てる。

5 書き起こしの記号 (例)

会話分析で使われているものなどを参考に、自由に決めてよい(既存の文献を参照)

- 沈黙: (.) (2.5)
- 笑い、呼気、吸気: (笑) hhh .hhh
- イントネーション: (↓) (↑)
- 相手のあいづち: [...]
- 声大きい: 下線
- 声小さい: >> <<
- 注釈: [.....]

6 情報の整理

対象者の基本的な属性については、事前にわかることを表などにまとめておくとよい。重要な内容について(特に事実レベルのこと)、表や箇条書きの形式で全対象者をまとめ、一覧できるようにしておく。この表に適宜必要な情報を追加していくとともに、自分の頭の中に全対象者の基本的な情報が入っているようにする。

7 分析と解釈

7.1 「分析」(analysis) とは

- 狭い意味では、要素にわけてそれらの性質や機能をあきらかにすること
- 広い意味では、要素がどのように組み合わせられて全体を構成しているかについてあきらかにすること(総合 = synthesis) をふくむ

後者のためには、要素をまず特定しなければならない。最終的には両方が必要になる(→木と森を両方見る)が、先に要素を分解しておく(→木だけを見る)

7.2 分析の方向性

- トランスクリプトをそのまま読み、直感によって「面白そうなこと」を抽出する
- 細かい「部分」をまず抽出し、文脈から切り離して分類 (あるいは「コード」「カテゴリー」など) をあたえる (KJ法、GTA など) →教科書 pp. 71-72
- (コンピュータによる語の分割・分類と統計分析) →樋口 (2020)

この授業ではとりあえず最初の方法で

7.3 解釈において気をつけること

要素を抽出するときは直感を信頼すること。

そのうえで、抽出した要素について多角的に解釈する。

- 文脈と意味
- トランスクリプトに書いてあることをそのままストレートに受け取っていいとは限らない。思い違い、嘘、謙遜、誇張、皮肉、冗談、聞き違いなど、さまざまな可能性を考えること (知念 2014)
- 面接時の記憶を思い出しながら考える。文字にはあらわれない口調、表情、ジェスチャーなども重要。必要なら当時のメモや録音を参照する。

7.4 総合と比較

要素をある程度抽出したら、その人の話の全体がどう構成されているかを把握する

- 要素同士の関連を見る：補強、矛盾、繰り返し、おなじ事実についての違う記述など
- 話の全体的な構成と、態度や口調の推移
- 個々の要素を念頭に置きながら、話の全容や対象者の人物像などをイメージする (かなりの集中力を要する)

複数の対象者のトランスクリプトを比較する：

- あらかじめ注目する項目が決まっている場合は、それにしたがって分類する (表にまとめるとよい)
- 複数の対象者のあいだでおなじことを言っている (または、おなじことについて、違うことを言っている) 部分を探す。本当に「おなじ」(または「違う」) といえるか、よく考えること。自分で考えた解釈について、他の解釈がありえないかを、意識的に考えてみるとよい。

論文やレポートにおいては、**どう批判的に読んでもこれ以外の解釈はありえない** というレベルの頑健さ (を裏付ける論証) が必要である。

7.5 その他の注意点

- 仮説検証か探索か
- 常識による解釈と理論による整理

8 次回

今回はトランスクリプトを実際に分析してみます。自分の調査のトランスクリプト（前に作ったのを修正したのでもよい）を Google Classroom のストリームに授業前に提出。

文献

樫村志郎 (2010) 「会話分析の課題と方法」『実験社会心理学研究』36(1): 148–159.

知念渉 (2014) 「「貧困家族であること」のリアリティ: 記述の実践に着目して」『家族社会学研究』26(2): 102–113.

樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析』(第2版) ナカニシヤ出版.

山田富秋 (1999) 「会話分析を始めよう」好井裕明・山田富秋・西坂仰 (編) 『会話分析への招待』世界思想社.